

放射線技術科

放射線技術科

科長

参事

中前

小西

光弘

康彦

「最新装置」のご紹介



▶放射線技術科のスタッフ

放射線技術科では、2019年から撮影装置等の更新を行っていますので紹介させていただきます。



▲担当技師

まず2月に、最新のデジタル技術を搭載した乳房撮影装置に更新しました。従来よりも撮影による被ばく線量が減り、撮影後数秒で画像が確認できることで検査時間も短縮されます。また、受診者の痛みを軽減し、リラックスして検査を受けられる空間を演出する、より優しい装置になっています。女性のスタッフが対応しますので、この機会に安心して「乳がん検診」を受診してみませんか！詳しくは、当院の健康管理センターまでお問い合わせください。

5月には、CT装置2台も更新されています。1台は320列の検出器を搭載した最新装置で、よりきれいに、より早く、そして被ばく線量を少なくする技術が提供されています。この装置は、心臓の血管(冠動脈)描出や乳幼児などの「動き」の多い撮影に効果を発揮してくれます。冠動脈疾患が疑われる方や冠動脈治療後の経過観察に用いられ、カテーテル検査に比べて、侵襲が少なく外来で検査を受けていただけるようになりました。

9月には、最新のデジタル機能(FPD)を搭載した頭腹部血管造影装置が更新されました。従来装置に比べて少ない被ばく線量できれいな画像を得ることができ、一度に2方向の画像を撮影できる機能(バイプレーン)も有しています。脳出血・脳梗塞などのカテーテル治療がより素早く的確に施行できるようにになり、造影剤の使用量を減らせることで、より安心安全な検査が提供できるようになりました。

2020年3月には、一般撮影を全面的に最新のデジタルシステム(FPD)に更新し、被ばく線量を約20%低減しています。また、7月には心臓血管造影装置も更新され、急性心筋梗塞などの心臓カテーテル治療もよりスピーディーに検査できる環境が整備されました。

4月からは医療法が改正され、医療放射線の被ばく線量を適正に管理することが義務化されました。被ばく線量管理システムを導入し、CT検査や血管造影検査などの被ばく線量を記録して評価できる体制を整備しています。

地域住民の皆さまに、より安心安全な検査が提供できるように34名の診療放射線技師が、最新技術と知識や経験の習得に邁進して参ります。

QRコード



詳しくはwebサイトをご覧ください。

泉州広域母子医療センター

Sensyu Regional Medical Center for Women's and Children's Health

●周産期センター(産科・小児科)

平成20年4月より、りんくう総合医療センター産婦人科と市立貝塚病院産婦人科はひとつの組織として統合されました。りんくう総合医療センターは「周産期センター」として泉州地域の産婦人科医療を担う拠点病院として運用しています。

